

I 学校の概要

1 学校及び地域の特徴

本校は、瀬戸内海のほぼ中央、広島県境に接する弓削島にある。校区は、美しく豊かな自然に恵まれている。保護者は学校教育に対して協力的であり、地域の方々も温かく児童を見守ってくれている。本校の校歌は、童謡作曲家の本居長世の作詞・作曲によるもので、歌詞の中にも、児童の健やかな成長を願う気持ちが、弓削の自然とともに詠み込まれている。島内には、保育所、中学校、県立高等学校、国立商船高等専門学校があり、教育環境も充実している。このような恵まれた教育環境の中、児童は素直で純朴に育っている。

弓削島は、古くから良質の塩の産地として知られ、平安時代後期には、当時の上皇や京都東寺へ塩を貢納していた「塩の荘園」であった。また、上水道は「友愛の水」と言われ広島県からの海底送水管により届けられていることも地域の特徴である。

本校の校区である弓削島と佐島は、弓削大橋（平成8年開通）で結ばれており、さらには生名橋（平成23年開通）と、岩城橋（令和4年開通予定）により、「ゆめしま海道」で上島町四島は結ばれることになる。しかし、上島町全体として過疎化、高齢化の波は避けることのできない現在の課題である。

2 学級及び児童数

明治9年から弓削島内に設置されてきた各学校を、明治36年に統合して本校は設置された。海運業、造船業界の好景気もあり昭和30年代の児童数は800人を越えていた。平成に入ると250名前後となり、平成15年度に、隣島にある佐島小学校の廃校に伴い佐島地区の児童も通学するようになった。平成29年度には100人を下回り、どの学年も1学級10人台と年々減少傾向にある。

令和3年度児童数(5月1日現在)は、次のとおりである。

学級	1松	2松	3松	4松	5松	6松	1竹	6梅	合計
男	8	8	8	7	4	6	0	1	42
女	3	7	7	10	6	6	1	0	40
計	11	15	15	17	10	12	1	1	82

II 研究の概要

1 研究主題

**ふるさとに夢や誇りをもって、仲よく進んで学び合う子の育成
～学校・家庭・地域が連携した教育活動の工夫を通して～**

2 主題設定の理由

本校の児童は、豊かな自然と温かい地域の人々との関わりの中で、素直で何事にも一生懸命に取り組んでいる。調べ学習や小集団学習なども真面目に行い、遠足や集会などの全校縦割り班での活動も、協力して活発に取り組んでいる。

しかし、自分の思いや考えを伝えることを苦手としている児童が多く、消極的な面が見られる。また、いくつかの学力調査の結果から、各学年の平均点は全国標準より

高いが、学習内容を十分に理解していない児童の割合が少なくないという課題も見られた。

そこで、これらの課題を解決するために、豊かで美しい自分たちの「ふるさと」を学習の場・対象・教材として取り入れ、学習活動に次のような創意工夫を凝らすことにした。友達や地域の方々との関わりの中で、周りから認められる経験を積み、自己肯定感や自己有用感を高めること。また、学んだことを地域に発信する機会をもち、自己表現力を高めることである。これら二つの教育活動を通して、児童の自信と意欲の向上を図ることができると考えたからである。

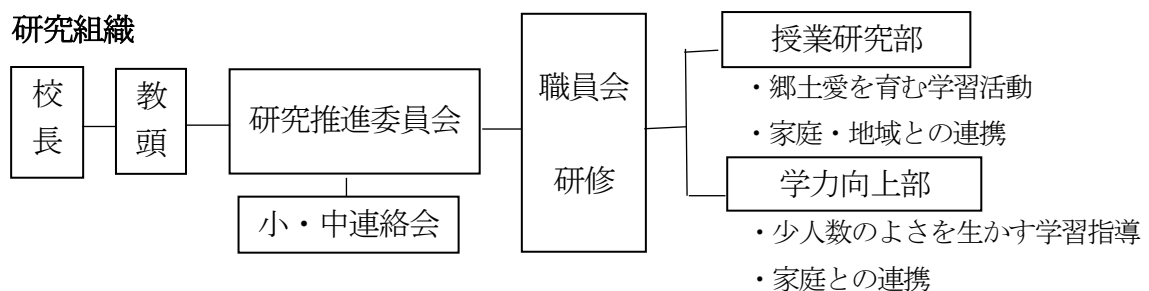
また、国立教育政策研究所教育課程研究指定校として取り組んできた「学校・家庭・地域一体の『学びのシステム』の構築」の取組を更に充実させることで、児童の基礎的・基本的な学力の定着と向上を図ることができると考えられる。

このようなことから、学校・家庭・地域が連携し、「夢を(ゆめ)を現実(げんじつ)にする学校」を目指した教育活動の工夫を図ることで、ふるさとのよさを体感させ、ふるさとに夢や誇りをもって、学び合おうとする児童が育つであろうと考え、本主題を設定した。

3 研究の仮説

- (1) 地域の人に学んだり、地域に学習の場を広げたりするふるさととつながる教育活動を工夫すれば、ふるさとのよさを感じ、夢や誇りをもって学び合おうとする児童が育つであろう。
- (2) 少人数に応じた指導や学び合いの場を工夫し、分かる授業づくりに努めれば、確かな学力が身に付き、自信をもって自分の考えを表現し、自主的に学び合おうとする児童が育つであろう。

4 研究組織



5 研究の内容

- (1) 郷土愛を育む学習活動
 - ア 地域素材(人・自然・こと・もの)やICTを生かした学習活動
 - イ 異学年集団の活動の工夫
- (2) 少人数のよさを生かす学習指導
 - ア 基礎的な学習内容の見取り(評価)を位置付けた算数科の授業
 - イ 自己評価カードを活用した個に応じた指導
 - ウ 「互いに学び合う」学習過程や学習形態等の工夫
- (3) 学校・家庭・地域との連携
 - ア 望ましい学習・生活習慣の定着化
 - イ 地域との協働活動